

島田市【市広報紙部門】

個別の寸評

- 良い広報は、よい企画にある。その基本を非常に高い次元で結実させている。
- タイトルロゴやビジュアルの作り込み、言葉のセンスがピカイチ。長年社会問題を自分ごととして継続して取り上げてきた歴史があるからこそその特集の精度。とにかく言葉のつむぎ方が上手。作り手の強い意志を感じる。
- 表紙の3人の女性は誰だろうと思ってページをめくったら、巻頭特集が「障害」。読者を引きつける工夫がある。「発達凸凹」のレイアウトは目を引く。地元企業だけでなく豊橋など市外の人にも取材して重層的に取り上げており、このテーマの大切さを市民に伝えようとする編集スタッフの自由な発想に好感が持てる。市の広報誌だからといって市内の事例ばかり取り上げては自己満足に終わってしまう。市民に考える材料を提供している。文章もこなれていて読みやすい。特に、久遠チョコレートの記事は読んで元気が出た。

川根本町【町広報紙部門】

個別の寸評

- 新生活が始まる4月号に、高齢者を対象とした「フレイル予防」を取り上げることで、自分自身の生活について改めるきっかけや具体的に行動に移すための情報が掲載されている。内容・タイミングともに秀逸である。
- 毎回表紙の写真が元気と勢いがあって良いです。巻頭の特集記事がその時々話題や関心事を特筆して構成されていることや「まちのわだい」のコーナーで身近な方の活躍を紹介するなど地域の親しみを盛り上げる内容もとても良いです。
- 高齢化が進む町の切実な問題であるフレイル予防について、イラストや図を多用して分かりやすく伝えていた。ほかの2人は問題なかったが、ひとりだけインタビューと本記がだぶり気味なのが気になった。

JA なんすん【団体広報紙部門】

個別の寸評

- 全体的にそれぞれのページが充実しており、読者を飽きさせない工夫が感じられる。毎月広報会議を行い、先月号の反省を活かしながら冊子を制作しているとのこと。団体の広報方針として職員の顔を積極的に掲載する指針も各コーナーで実現している。
- ずば抜けたクオリティと紙面企画だと思いました。これを毎月出していることに驚きます。ニーズに沿った内容やレシピ、イラストや漫画挿入など工夫を凝らした演出がプロ級です。
- 農福連携の特集は秀作。社会的に大変に意義深い事業で、図も分かりやすかった。ドローンやYouTube、SNSとの連動、通販など先進的な取り組みもあり、意欲の高さをうかが

わせる。一点だけ、マークの多用がゴテゴテして逆効果に感じた。

富士市【広報写真部門】一枚写真

個別の寸評

○大きなサンマを手掴みで持ち上げる被写体の誇らしげな目と、それを横目で眺める友達の視線が愛らしい。その瞬間を逃さなかった撮影者。演出ではなくごく自然な表現となっている。キャプションのフォント選びもマッチしている。

○保育園児が、サンマの頭を持って上手に食べられたのを誇る楽しい1枚。食べる前の写真は「インスタ映え」などと言われ、美しく撮影できるが、汚くなりがちな食後の写真を、サンマの美味すら想像できるようにまとめた。

○カメラの露出が、手前のテーブルの明るさを拾ったために、顔が暗くなっていました。しっかりピントが合った魚の骨が印象的です。斜めに入れたキャプションも効いています。

富士市【広報写真部門】組写真

個別の寸評

○日の出時刻から撮影者自らが、しらす漁船に乗船して得た写真だからこそ得られる臨場感。出航から市民の胃袋に収まるまで、しらす漁の一日が見て取れる紙面構成。筆文字を随所で使用するなど編集者の思いが伝わる力強さがある。

○「田子の浦しらす」の漁の様子から釜揚げされ、市民の口に入るまでを21枚という枚数の中、メリハリをつけてレイアウトされている。誇りを持っていることが伝わり、「田子の浦しらす」を食べたくなった。

○様々な場面を、よく取材して上手に撮っています。特に、早朝の出漁の様子を、波の描写とともに撮った写真に迫力があり、それを大きく使ったところがこのページ最大の魅力となっています。

牧之原市【映像部門】

個別の寸評

○牧之原市とサーフィンチームの合作で東京五輪のホストタウンの取り組みを丹念に記録している。選手の紹介映像はドローン、水中映像とも迫力があり見ごたえがあった。静波海岸という観光資源と市が力を入れている専用施設の紹介などもあり、五輪の記録として良い作品と感じた。

○企画・構成ともに非常によくできた作品だと感じた。

○映像表現、編集、構成ともに完成度が非常に高い作品。長いVTRだがメリハリがあっ
て見やすかった。多くのシーンが盛り込まれ市や市民のホスピタリティ、そして選手たちが喜んでいたことが十分に感じられて見ていて気持ちよかった。牧之原市の夏の出来事を力強く伝える作品。